

[講演要旨] 善光寺地震(1847)池田組大絵図に描かれた土砂災害の紹介

国土交通省 北陸地方整備局 松本砂防事務所 長井義樹

日本工営株式会社 井上公夫・飯沼達夫・今村隆正

§ 1. はじめに

弘化四年三月二十四日(1847.5.8)に発生した善光寺地震は、M=7.4の直下型地震で、震源地は長野市浅川地区と推定されている。松代藩の「信州地震大絵図」(真田宝物感所蔵、縦152cm×横221cm)は有名で、善光寺地震災害研究グループ(1991)は松代藩領内で4万2000箇所、松本藩領内で1900箇所の地すべりや崩壊地があるとされている。

松本砂防事務所(2003)「松本砂防管内とその周辺の土砂災害」の冊子作成業務の調査で、善光寺地震による土砂災害について、絵図・史料により新しい知見を得たので報告する。

§ 2. 善光寺地震池田組大絵図

池田町誌編纂委員会(1985)等に掲載されている「善光寺地震池田組大絵図」(原田恵美子氏所蔵)を池田町で見せて頂いた。この絵図は、縦165cm×横385cmの大きなもので、「信州大絵図」ではあまり詳しく描かれていなかった松本藩領内の池田組地域における土砂災害の状況が克明に描かれていた。高瀬川と犀川の河道の曲流状況、それらの河川に挟まれた

大峰丘陵内の崩壊地や地すべり地、天然ダムの形成状況が示されており、現在の地形図や航空写真で、その場所や土砂移動の状況を特定できた。

§ 3. 大町市山田町の「どじょう崩れ」

高瀬川支流農具川左岸で大規模な崩壊が発生し、霊松寺が倒壊したという。大町市史編纂委員会(1984)によれば、霊松寺は応永十一年(1404)に麓の沖積錐の上に建立されたが、善光寺地震の際に倒壊・炎上した。その後、丘陵地中腹の現在地に再建されたという。地元ではこの崩れのことを「どじょう崩れ」と呼んでいる。この付近には、松本盆地東縁断層が走っており、上流部の崩壊地形と沖積低地に発達した沖積錐の地形が明瞭である。豪雨や地震によって、崩壊現象が何回も発生し、繰り返し土砂が流出・堆積したのであろう。

§ 4. むすび

今後、さらに現地踏査や聞き取り調査、史料との比較検証などを行い、これらの土砂移動や天然ダムの形成・決壊状況を把握して行きたい。



「善光寺地震池田組大絵図」(原田恵美子氏所蔵)

縦165cm×横385cm